

第6回 組織風土改革のための有識者会議 議事要旨

- 1 日 時 平成30年10月15日(月) 9:05~11:36
- 2 場 所 神戸市役所1号館12階 1121会議室
- 3 出席委員 神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授 ◎山下 晃一
兵庫教育大学大学院学校教育研究科准教授 ○川上 泰彦
甲南女子大学人間科学部心理学科教授 黒澤 良輔
岡山大学大学院社会文化科学研究科教授 塚本 千秋
弁護士(神戸京橋法律事務所所長) 林 晃史
弁護士(野口法律事務所) 福田 和美
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社主席研究員 善積 康子
- ※ ◎は座長、○は座長職務代理者

4 会議内容

(1) 小学校長会からの意見聴取

小学校長会から3名の校長が出席し、教職員による不祥事の防止及び教職員の人事異動などについて説明を行った。その後、その内容について質疑を行った。

(2) 神戸市教職員組合からの意見聴取

神戸市教職員組合から2名の教員が出席し、教職員による不祥事の防止及び教職員の人事異動などについて説明を行った。その後、その内容について質疑を行った。

(3) 委員による意見交換

- ・教職員の不祥事について、学校は一般的に閉鎖的で上下関係があり、体罰やセクハラ、パワハラといった問題が起こりやすい組織であるという抽象論は言えるが、不祥事に対する斬新な対策というのは難しい。特に業務外の不祥事については、校長会や組合が切り離して考えたいという意見であったが、同感である。
- ・不祥事対策については、他の都道府県でも今回の神戸と同様に対策がまとめられており、どこも同じようなことが起こっているのだなと感じた。
- ・各学校における不祥事対策の取り組みを聞いたが、各学校の対応ではやはり限界があるのではないかと感じた。
- ・ある教育雑誌で都道府県や政令市の教員向けの不祥事対策の資料を分析されていて、岡山県のものが素晴らしいと絶賛されていた。岡山県教委のホームページで資料を拝見したが、確かに他とは違う視点でわかりやすく書かれていた。この分析の仕方や着眼点などは取り入れるべきである。
- ・不祥事対策を単なる不祥事対策で終わらせている間は、大半の人が起こさないことになぜ時間を費やすのかと、優先順位が低くなる。岡山県では、不祥事対策は生徒指導や人間関係に直結し、ひいては各教師の人生を豊かにするものだと2年間訴え続け、月1回の不祥事研修をトップダウンでやってもらった。最初は現場からの不満の声は

大きかったが、徐々に浸透し始めている。ただし、神戸では岡山とは、校長先生の意識や存在感が違うので、教育委員会発出のトップダウン型ではない、もっと自由な発想でやっていく必要があると感じた。

- ・私は不祥事を起こした教員数十人と話をしたことがあるが、ごく普通の教員が不祥事を起こしている。特にストレスがたまった人でもない。なぜ自分が不祥事をしたのかわからないと言っていた。誰でも不祥事を起こしうるし、なかなか不祥事は無くならないものである。
- ・教職員の不祥事になると、子供を対象としたセクハラ、暴力、パワハラなどが多い。学校の先生によって、子供が逃げられない狭い空間の中で被害者となる側面があるので、子供の権利の侵害というか、ある意味児童虐待のような側面がある。一般的な不祥事に加えて、子供に対する人権侵害があるという視点も入れていくべきである。
- ・教職員の人事制度について議論してきたが、制度に問題があるとは思いますが、後半の議題である不祥事とは直接的な関係はないと思われるので、取り扱いが難しい。
- ・教職員の人事制度は課題が多いし、今日の話聞いても腑に落ちないところがあった。改善する必要があるかと思うが、不祥事対策として取り上げることは難しいのではないか。
- ・強いチームをつくるために今の人事制度が有効であるという説明だったが、この仕組みでは個々の組織が外と隔絶して内々で固まり、風通しが悪くなるきらいがある。何か不祥事が起こった時に、外の風が入らない仕組みではリスクがあり、風通しの良い仕組みをつくる必要があるという指摘が必要ではないか。

(4) 次回以降に向けて

- ・これまでの資料や意見聴取、意見交換等を踏まえて、委員各自が教職員による不祥事に関する意見を取りまとめ、次回の会議において報告することとした。